

「協議調整型まちづくり・建築づくりと 建築系ファシリテーター」

～建築デザインや街づくりにおける
利用者、専門家、行政の関係について

参加のデザイン

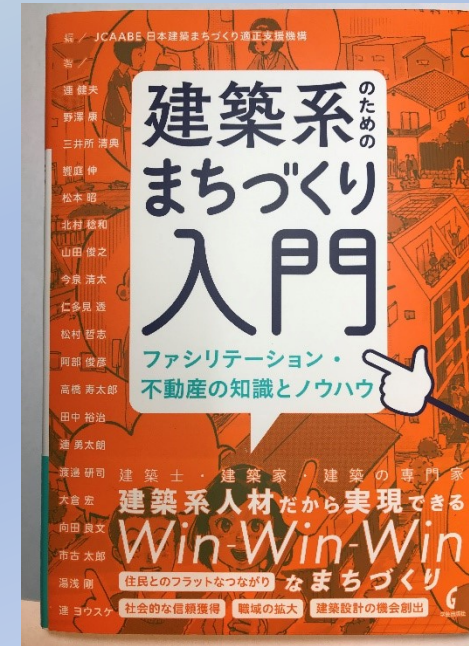
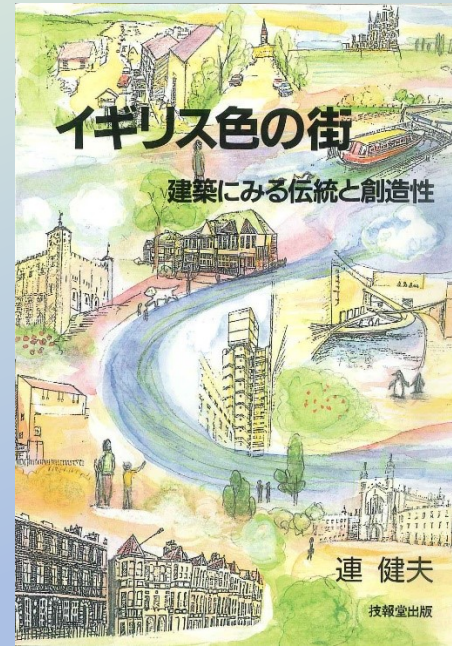
連健夫(むらじたけお)、建築家

JCA ABE 日本建築まちづくり適正支援機構代表理事



1956年、京都市生まれ、東京都立大学大学院修了、建設会社10年勤務の後、胃の手術がきっかけとなり、
1991年、渡英、AAスクール留学、AA大学院優等学位取得の後、同校助手、在英日本大使館嘱託、
1996年、帰国、建築設計の傍らまちづくりに関わっている。早稲田大学、芝浦工業大学講師、
港区まちづくりコンサルタント、港区景観アドバイザー、2017年～日本建築まちづくり適正支援機構代表理事
※ルーテル学院大学新校舎(JIA優秀建築選)はくおう幼稚園(栃木県建築景観賞)荻窪家族レジデンス(グッドデザイン賞)

→参加の設計・まちづくり



参加のデザイン(街・建築)

- 街→住民参加のまちづくり
- 建築→利用者参加の建築設計
- 参加のデザインの2つの意味
 - ①参加型の設計やまちづくり
 - ②参加の機会を作る方法

建築・まちづくりの法体系

地域ルール

- ・ 条例
地方自治体が決める → 地域の個性

全国ルール

- ・ 都市計画法
- ・ 建築基準法
- ・ 景観法

など → 全国統一

法体系に乗らない自主ルール → 地域の個性

法令の中での「参加」位置づけ

- 1968年：都市計画案の縦覧、意見書の提出
→パブリックコメントに発展
- 1980年：地区計画制度の創設
(地区スケールの計画ツール、住民参加、合意形成の必要性)
→多くの街でまちづくり条例ができた。
- 1992年：新都市計画法で、住民参加が奨励された
→都市マスタープラン、ワークショップの手法
- 2004年：景観法の制定



タカラ（良い点）とアラ（悪い点、課題） を見つけ解決策を考えるワークショップ

事例：
赤坂通りまちづくりの会

当方の立場：
登録まちづくりコンサルタント



カメラ係、
メモ係
ポインター係

→ 小道具は重要！





ゴミ

広告

ガードレール



落書き

窓割れ理論：
Broken Window
Theory.

軽微な犯罪も
徹底的に取り締まる
ことで、凶悪犯罪
を抑止できるとする
環境犯罪学上の理論
アメリカ犯罪学者
ジョージ・ケリング
が考案した。



グループに分かれて
ディスカッション
→

4~6人位が話やすい

※全員が話す機会



先進事例見学 (元町)





ゲート

クランク状
の道



ストリート
ファニチャー

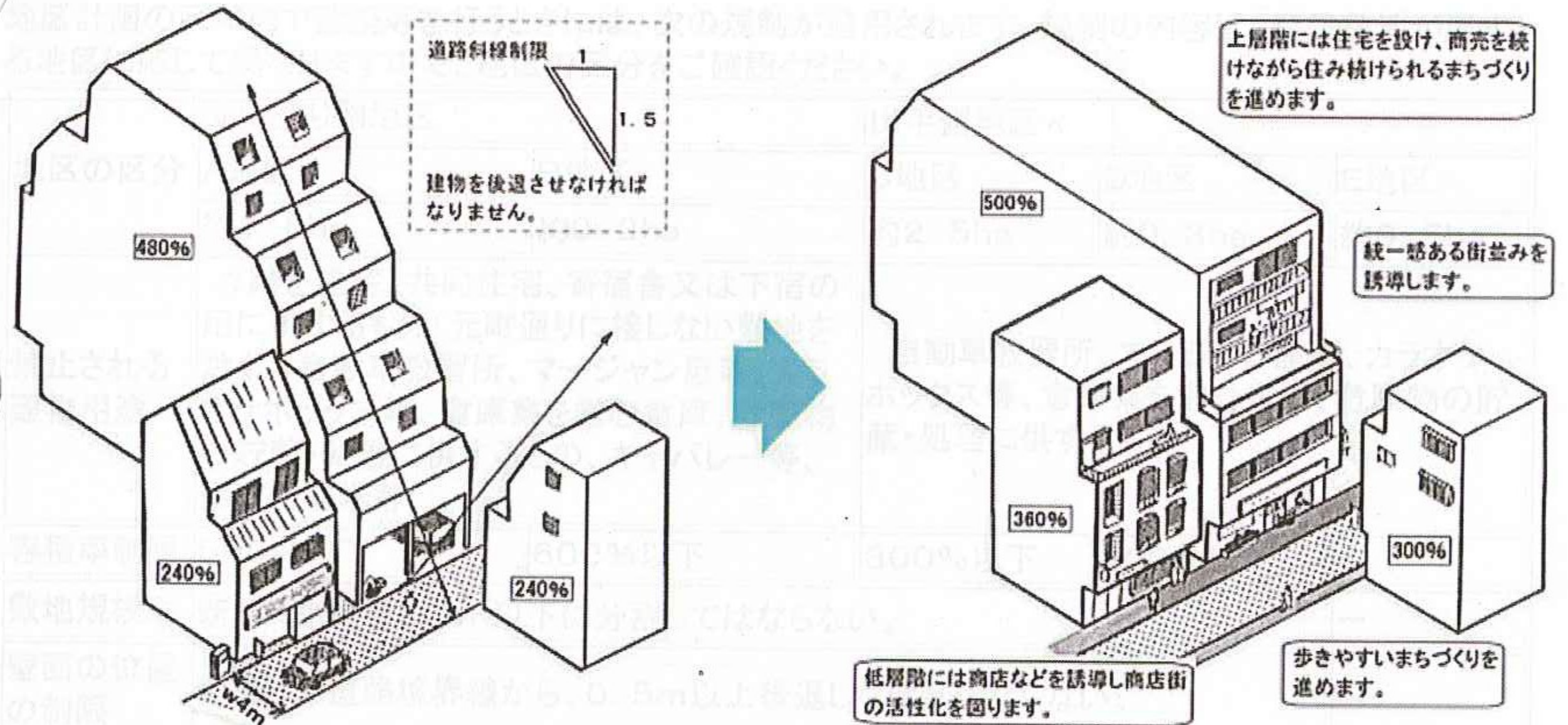
ボラード





切文字、
外照式看板
はオシャレ
→街のルール





街並誘導型地区計画：セットバックして道を広くする代わりに、斜線制限をはずして容積率いっぱい建てられるようにする



赤坂、街づくりの提案の実践
落書きワークショップ°

ビジョンづくりワークショップ°



ビジョン案を作り、賛同者を募る

- 住民の2分の1以上が必要
- 防犯性の高いマンションでは
住民と直接コンタクトをとることができな
- 断念
- 我が街ルール10ヶ条（自主ルール）
を作成して運用

赤坂通りまちづくりビジョン（案）



「赤坂通りまちづくりの会」ではまちづくりの範囲と赤坂の2, 3, 5, 6, 7, 8, 9丁目を扱っています。今回、ビジョンの登録において、赤坂6丁目一部の旧日大三高通り沿道地域を対象地域としました。地区まちづくりビジョンの登録要件として、

- ①区域内の在住区民の過半数の合意が必要
- ②対象区域が他のまちづくりビジョンと重複していない
- ③土地、建物に係る権利を制限とする内容でない
- ④説明会の開催等により事前に対象区域内の区民に周知し、その意見を聴いてまとめたもの

となっており、比較的皆様の合意を得やすい範囲とすることで設定しました。今後、ビジョンが登録され、ルールづくりが行われ、活動が軌道にのった後は、この範囲を広げていく予定です。是非、この第1歩でございますので、趣旨をご理解し、ビジョンに賛同して頂ければありがたく存じます。

対象地域：旧日大三高通り沿道地域

連絡先：「赤坂通りまちづくりの会」事務局 寺腰（03-3588-1600）

【花咲か赤坂】

そぞろ歩きが楽しめ、
ときめきの出会いがあり、
住む人、働く人、訪づれる人、
皆にとって優しい街、
子供が楽しめる育遊の街、
バリアフリーで広い空のある街、
緑が豊かで植栽が楽しめる
まちづくりを目指します。
「美しいこと」「栄えること」

の意味から

【花咲か赤坂】

をコンセプトワードとします。

※ビジョンの内容は、ワークショップで出てきた4グループからのビジョンをまとめたものです。

通りの改修案

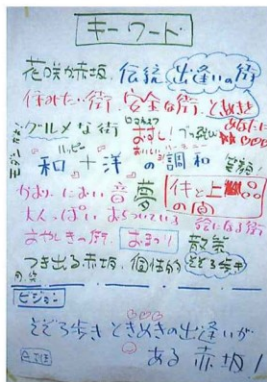
道のデザイン、

→

一方通行の検討、

→名前の募集

赤坂通りまちづくりビジョン



キーワード・ビジョン



赤坂への想いを表現したコラージュ

【花咲か赤坂】

そぞろ歩きが楽しみ、
ときめきの出会いがあり、
住む人、働く人、訪れる人、
皆にとって優しい街、
子供が楽しめる育遊の街、
バリアフリーで広い空のある街、
緑が豊かで植栽が楽しめる
まちづくりを目指します。
「美しいこと」「栄えること」
の意味から

【花咲か赤坂】

をコンセプトワードとします。

※ビジョンの内容は、コラージュワークショップで出た4グループからのビジョンをまとめたものです。

【落書き消し事業 ワークショップ】

日時：2012年7月14日（土）10時～16時

（参加者：30名）

場所：休用地の仮囲



仮囲いに落書きがある
BEFORE



塗装作業
AFTER



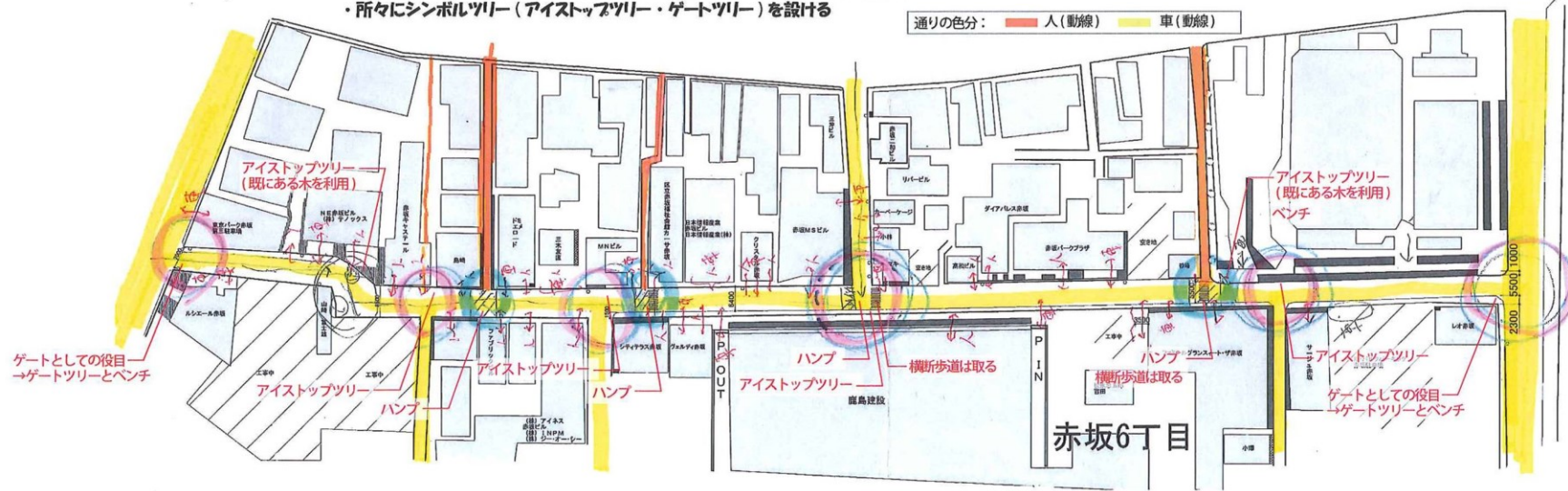
皆で協力して塗装し落書きを消した
色はこげ茶：日本塗料工業会 2005 年度版で、C19-40D、5 部塗
AFTER

旧日大三高通りのデザインコンセプト

*特徴

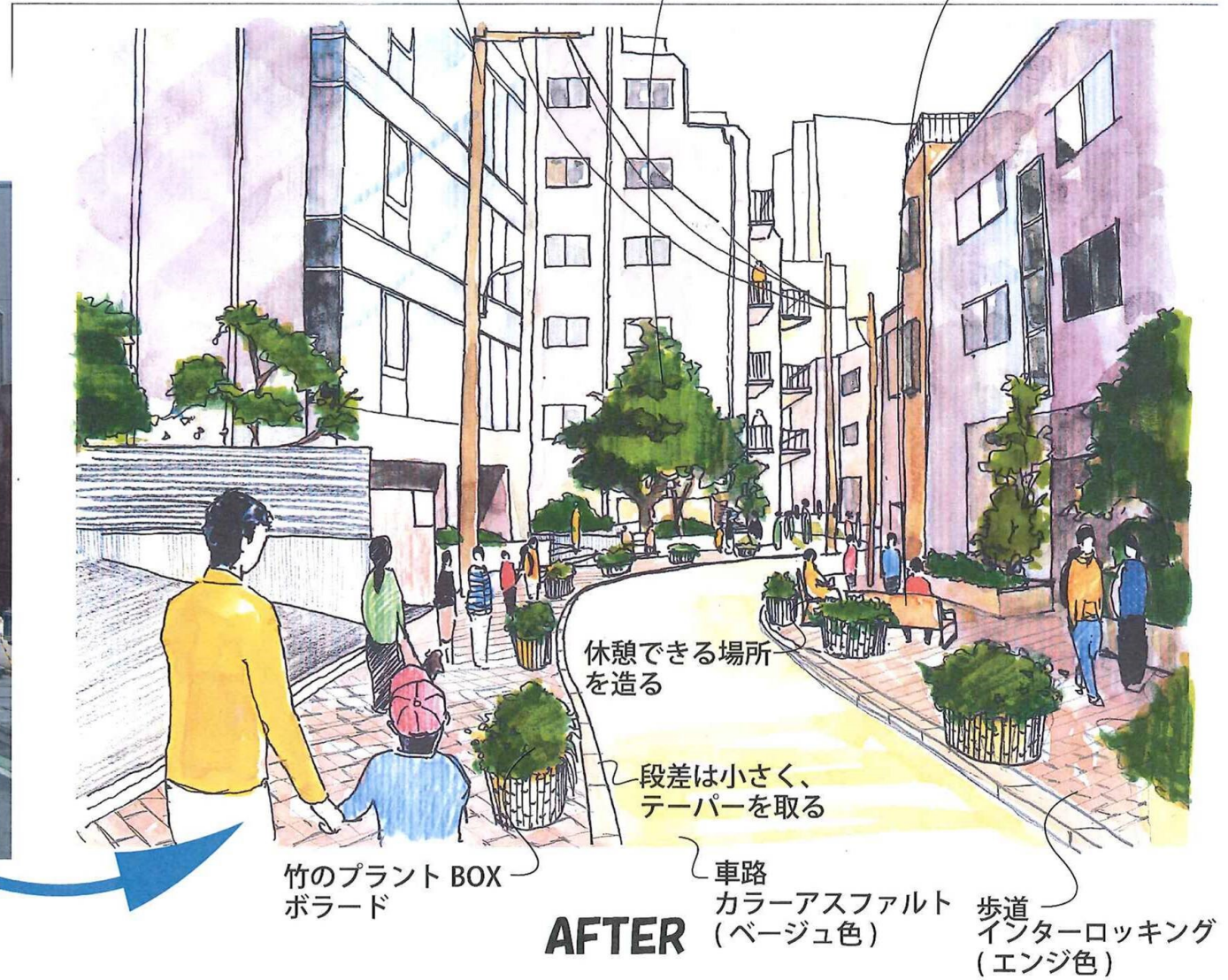
旧日大三高通りを横断する
車道がなく、歩道を含め
T 字型に繋がっている
うまくデザインすれば、
まとまりのある道になる

- ・一方通行にして両側に歩道进行
- ・歩道と車道の段差は小さく、車イスでも移動できるようテーパー（斜め）をとる
- ・車道は緩やかに蛇行させて変化をつける
- ・歩道はインターロッキング舗装、車道はカラーアスファルト舗装
- ・所々にハンズ（盛上げ）を設け、車がスピードを出せないようにする→人が通る小路の出入り口（従来の横断歩道に替わる）
- ・歩道の広がった場所にベンチを設ける
- ・歩道と車道の境界にはフェンスを設けず花壇付の置型ボードとする
- ・電信柱は広告を取り、こげ茶色に塗装する（落書き消しワークショップと同色）
- ・所々にシンボルツリー（アイストップツリー・ゲートツリー）を設ける





BEFORE

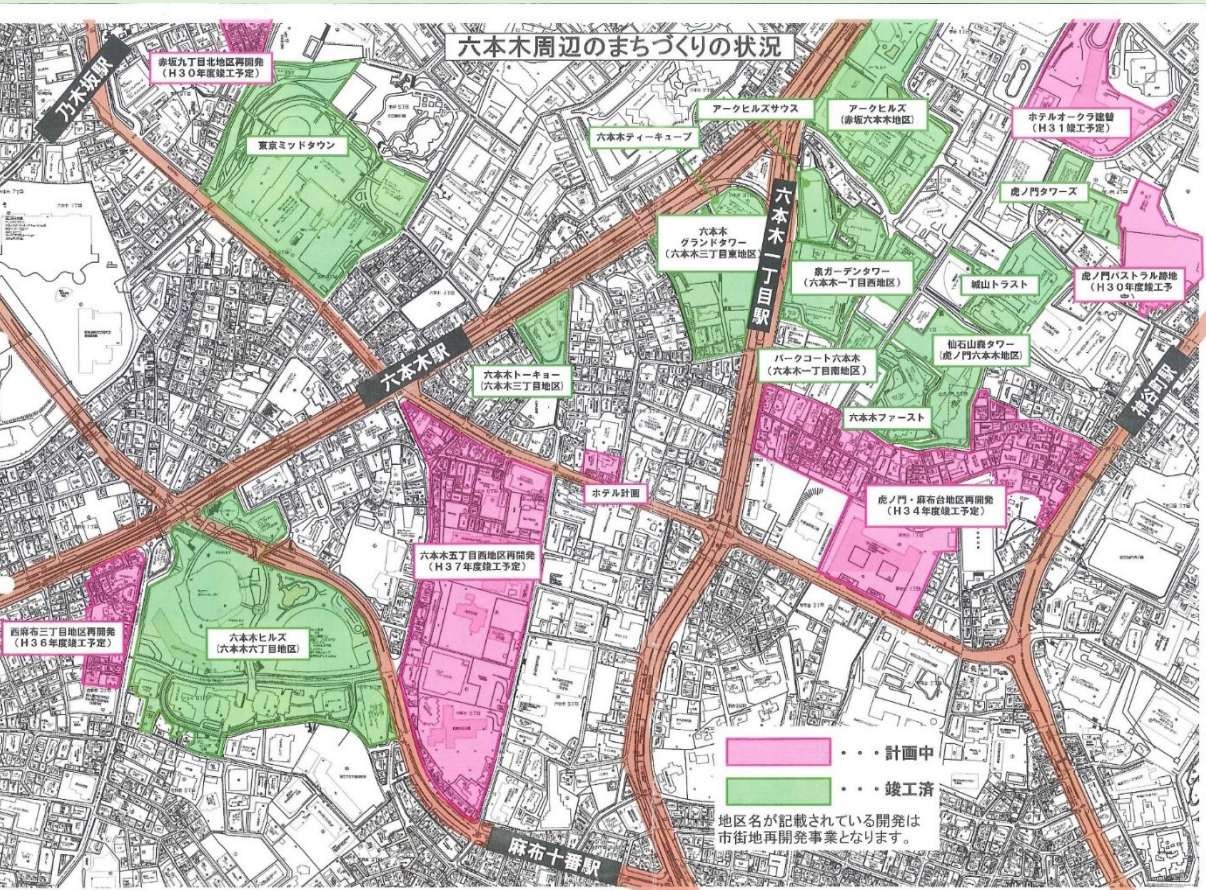


AFTER

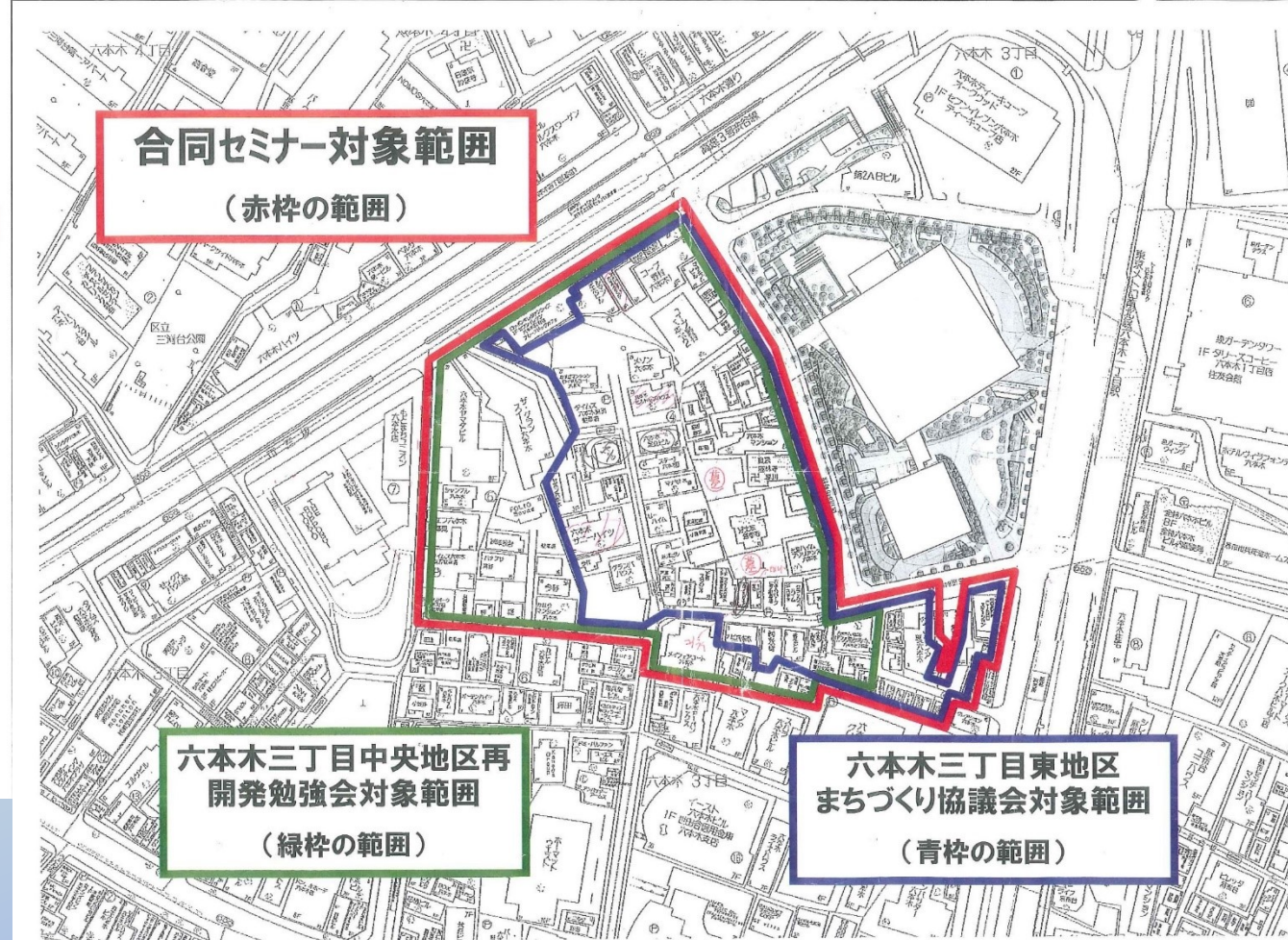
旧日大三高通り 西側入口部分

再開発における住民参加のまちづくり

当方の立場：登録まちづくりコンサルタント



六本木周辺における再開発事業



再開発のエリア外の住民も参加できる機会を作る

再開発手法を用いたワークショップ 再開発手法を用いないワークショップ の両方を実施し、それぞれの特質を理解する！

第4回まちづくり合同セミナー（シリーズ1）：講演「良質なまちづくりとは何か？」

サブテーマ：六本木三丁目の東側の地区のアイデンティティづくりを英国の経験より話す。
いつまでも住み続けられる街とは？参加のまちづくりを楽しもう！

■日時：2017年1月29日（日）14：00～16：00

■場所：住友不動産六本木グランドタワー 9F カンファレンスセンター

■講師：連健夫氏：建築家・港区まちづくりコンサルタント、早稲田大学、首都大学東京非常勤講師

①癒され元気になる街並みを英国に見る

村の構成要素は教会＋公園＋パブ（食堂・バー）であり、新しい集合住宅の設計にも活かされています。イギリス庭園は自然の景観、地形を活かすのが特徴です。前庭は街並に貢献する半公共的な場として捉えており、コミュニティと地域資産へ貢献しています。つまり個人のストック（建物や庭広場）が社会のストック（街並、地域資産）になっています。

②良質な建築・街づくりの仕組（英国 CABE）

英国には良質な建築・まちづくりを行うシステムとして CABE（ケイブ）という組織があります。公共建築や一定規模以上の建築に対して、専門家が入って協議調整が行われています。

③街づくりのポイント：地域のタカラ（良い点）を活かすと共に、アラ（問題点）を解決し地域の特徴を活かすこと。耐震化・不燃化を図り安心、安全な環境を作ること。街づくり条例をうまく活用し、街の個性（アイデンティティ）を共有化することです。



第4回まちづくり合同セミナー（シリーズ2）：「コラージュづくり大会」

将来の街のイメージを各自、持ち寄ってコラージュ（切り貼り絵）を皆で作りました！

■日時：2017年3月12日（日）14：00～16：00

■場所：港区麻生区総合支所「区民協働スペース」 ■参加者（47名）



■まとめ



第4回まちづくり合同セミナー（シリーズ3）：具体化のデザインを考える（デザインゲーム）

コラージュ大会で得られた将来の夢を、地図の上にスタイロブロックを使って、建物や広場をゲーム感覚で作りました！

デザインゲーム：住民参加のまちづくりの手法、皆で一緒に考えることにより、敷地の特徴や建物と外部空間との関係を理解すると共に将来の夢を具現化（ゾーニング配置）することになります。今回のデザインゲームは、再開発を前提に行ったものではなく、「再開発という手法を使った場合にどのような形になるのか」をゲーム感覚で皆で作ってみたいという試みです。これを通して設計条件として、①～⑥のまとめが生まれました。これをベースにして次回はプロが複数のゾーニング案を出し、皆で検討します。

尚、協議会では別な機会に「再開発以外の手法」でのデザインゲームもやってみたいと考えています。

■日時：2017年5月20日（土）14：00～16：00

■場所：港区麻生区総合支所「区民協働スペース」 ■参加者（42名）

Aグループ



- ①住宅とオフィスタワーのエリア分け
- ②2つのタワーの領域感
- ③グランドタワーとの整合性・一体感（課題）
- ④段差を活かす場所（ロビー・ジェット広場的）
- ⑤住民重視の地域→広場を広く、丘の感じ
- ⑥オープンスペースを活かす

Bグループ



- ①業務棟は六本木通り側に配置（ビル風が生じないデザイン）
- ②住居棟は南側に配置
- ③両棟の間に広場（六本木通り側）と公園（南側）を設ける
- ④お寺の擁壁（崖）周りは緑にする
- ⑤建物の周りに遊歩道を設ける
- ⑥広場、公園の周りにお店を配置

事前復興まちづくり

震災が起こる事前に、
復興のシュミレーションをするまちづくり

事例：白金高輪
（立場：専門家、ファシリテーター）
主催：港区高輪地区総合支所

2017~,白金高輪、白金台、芝浦、麻布、青山、芝三田、芝浦海岸、2025麻布東

住民とエリアを廻る：危ない所、安全な所（アラ） 発災後に使える場所（タカラ）など話しながら歩く



かわら版： 出席できなかった人 にも分かる ようにする →記録

白金五・六丁目地区

第1号

震災復興
まちづくり訓練

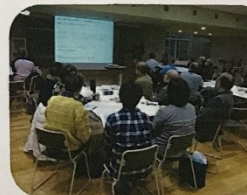
かわら版

【発行】 港区 高輪地区総合支所 協働推進課
【問合せ先】(事務局) まちづくり推進担当 電話：03-5421-7664 ファックス：03-5421-7626
平成29年12月

第1回訓練(ガイダンス)を 開催しました！

「震災復興まちづくり訓練」は、通常の防災訓練とは異なり、大震災を想定した復興過程を模擬体験して、『被災したあと、どのように暮らしとまちを復興していくか』を地域のみなさんと区職員、専門家とともに考える訓練です。

平成29年11月21日(火)、白金の丘学園ランチルームで、第1回訓練を行いました。地域の25名の方々、区職員、専門家が集まり、市古太郎先生(首都大学東京 教授)のお話を聞いて、まちの復興とはどんなことか、イメージを膨らませました。(裏面をご覧ください)



2月の第4回訓練までのお付き合い、どうぞよろしくお願いします！

第2回訓練のご案内

テーマ 震災被害をイメージして復興課題を考えよう！

日時：平成29年12月9日(土) 9:30~12:30

場所：白金の丘学園ランチルーム

内容(予定)：

○震災で、どのような被害がどこに起きやすいか、防災や復興に役立つ資源がどこにあるか、まちを歩いて確認します。

○復興の重要なポイントやテーマ、復興の方針づくりなどを話し合います。

第1回訓練の様子

市古先生の講演



神戸市の野田北部地区の実際の復興の様子を映画で見ながら、

- ・都内で行われた、同様の訓練の事例と、その地区に合った復興を検討した成果。
- ・港区都市計画マスタープランの「回復力のあるまち」を実現するための方針や、都の被害想定など。

等のお話しをしていただきました。

港区都市計画
マスタープラン

訓練を実施した
豊島区上池袋地区の
まち歩きの様子



復興問題トレーニングをやってみました ~“ワークショップ”ってなに？

訓練の方法である“ワークショップ”を体感しながら、当地区で被災したらどんなことに困るのか、4つの班で考えてみました。

班ごとに、なりきる家族構成と住まいの被害を決めました。



その家族が、震災1週間後、1か月後、3~6か月後に、どこにいて、どんなことに困っているか、イメージを出し合いました。

「A 古い戸建住宅に住んでいる高齢者夫婦とネコ」が「全壊」した班

⇒時間が経つと、まちを離れて住まわざるを得ない人が出て、今までのコミュニティがどうなるか心配。等



「D マンション住まいの親子4人家族(小学生、幼児)」が「大規模半壊」した班

⇒ライフライン被害のため、実家を頼るが、1か月後頃から、子どもの教育を考えて自宅に戻るか悩みそう。等



「C 戸建住宅に住む3世代家族、祖父は町会役員」が「一部損壊」した班

⇒自宅に住み続ける。みんな協力して取り組んだり、外からの支援を受けることを考える必要がある。等



「D マンション住まいの親子4人家族(小学生、幼児)」が「全壊」した班

⇒避難所に行くしかないが、マンションの全員が入れるか不安。建物の再建については意見が割れなさそう。等



「まちの復興には、様々な人の立場も考えていくことが大切」ということを共有できたのではないのでしょうか？。今後もそのような視点を持って検討していきましょう！。

各グループ
で話し合った
ことを
発表し、
共有する



住民参加のまちづくりの良さ

- ・住民が街の良い点と問題点を考え、共有する。
- ・良い点を活かし、問題点を改善する提案ができる。
- それを専門家と共に実行する。
- 自分の街を大切に使う気持ちが生まれる。

利用者参加の建築設計

- コーポラティブハウスにおける居住者参加
(英国は公共住宅で発展、日本は民間集合住宅で発展)
→ 公共建築にも利用者参加の仕組みが取り入れられるようになった。
- 利用者参加の理論的構築 (実践と理論)
 - ヘンリー・サノフ (ノースカロライナ大学教授) デザインゲーム
 - ニック・ウェイツとチャールズ・ネビッド : コミュニティアーキテクトの先駆者
 - 延藤安弘 : 千葉大学教授を経てNPOで活動した。コーポラティブハウス推進者、
都市計画学会賞など多数受賞、著書「対話による建築まち育て」等
多数

建築家の設計、利用者参加の萌芽



建築家：芦原太郎、北山恒
白石第二小学校
1996年

計画案に対して、子供たちが使い方の
アイデアを出すワークショップを実施
→ユーザーと建築家の双方向のやり取り



コンペ案から参加のデザインへ

湘南台文化センター（1990）
設計者：長谷川逸子

コンペで選ばれた案に対して住民から様々な反応があったことから、市民との間に意見交換会が行われ、これをきっかけに市民参加のワークショップが実施された。
案の説明、市民の理解、市民からの要望を計画に反映、見学会などを実施
→動線計画の変更、
バリアフリーへの手立



住民参加のワークショッププロセスによる建築家設計の 市民ホールが避難所として上手く機能した。 大船渡リアスホール(2009年、設計:新居千秋)

住民がワークショップ参加を通して、トイレの位置など場所を理解している





建築設計における利用者参加の事例 (隠岐の島、海士町、農林水産物加工施設)





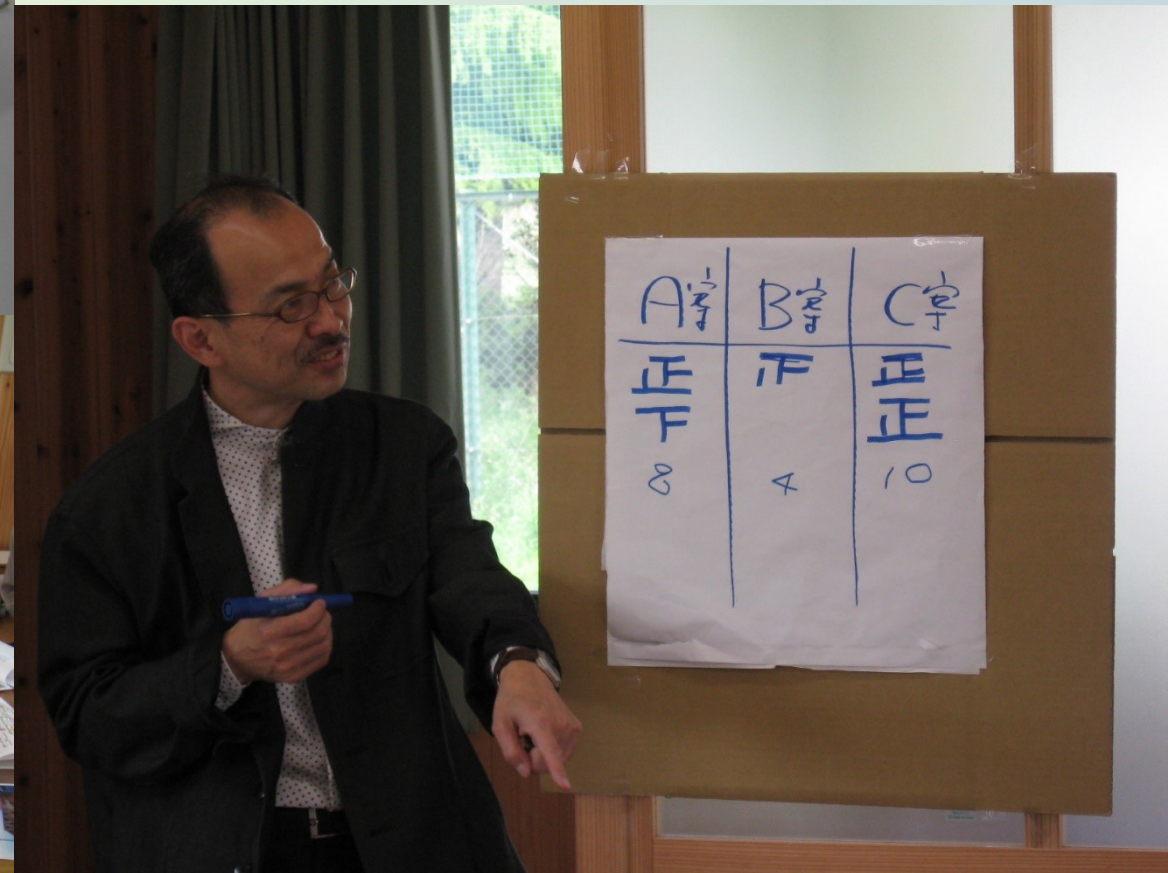
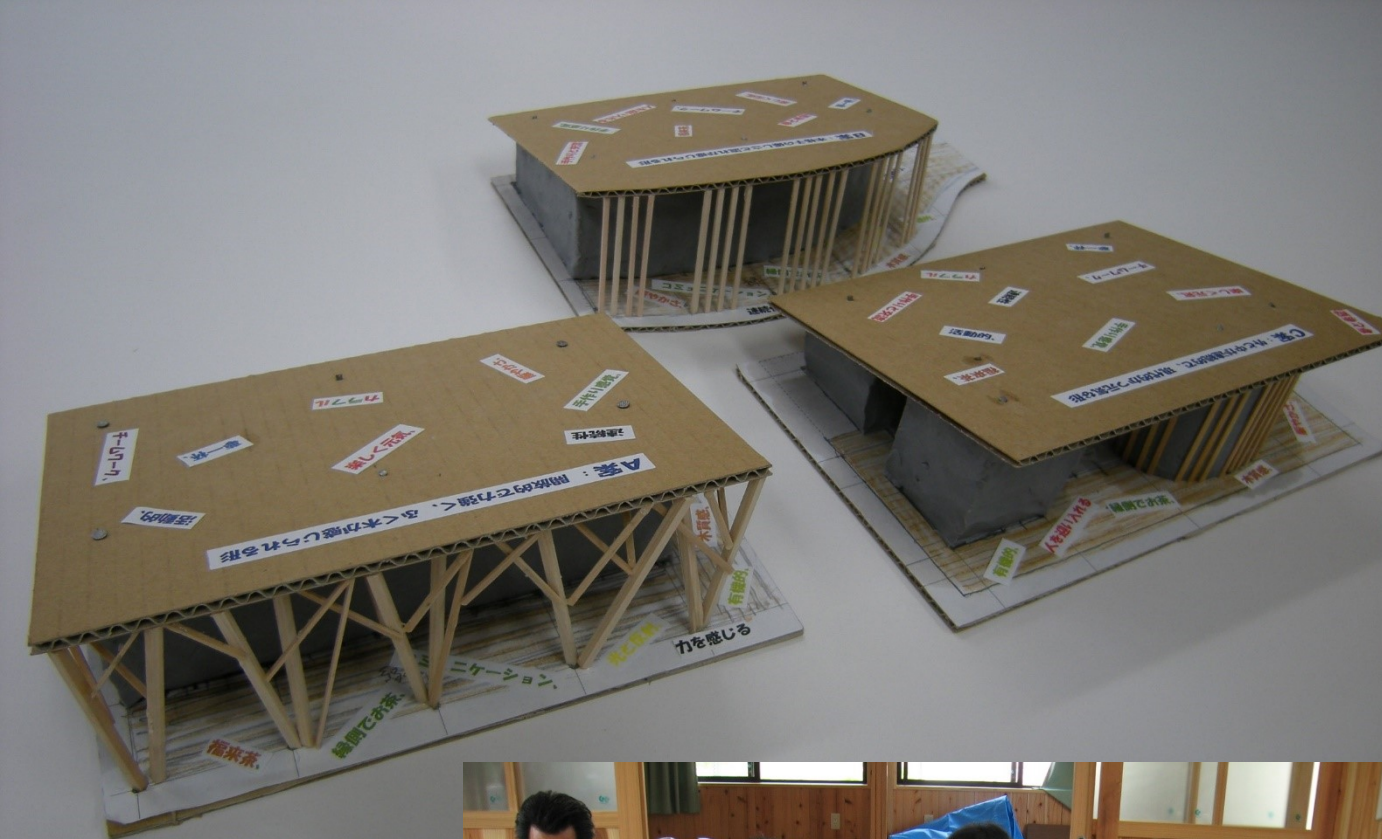
メンバー
(利用者)
で新しい建
物について
話し合う

夢をカラー
ージュで表現



コンセプト
手作りと交流を楽しみ、希望が感じられる場
→人を迎え入れる建物

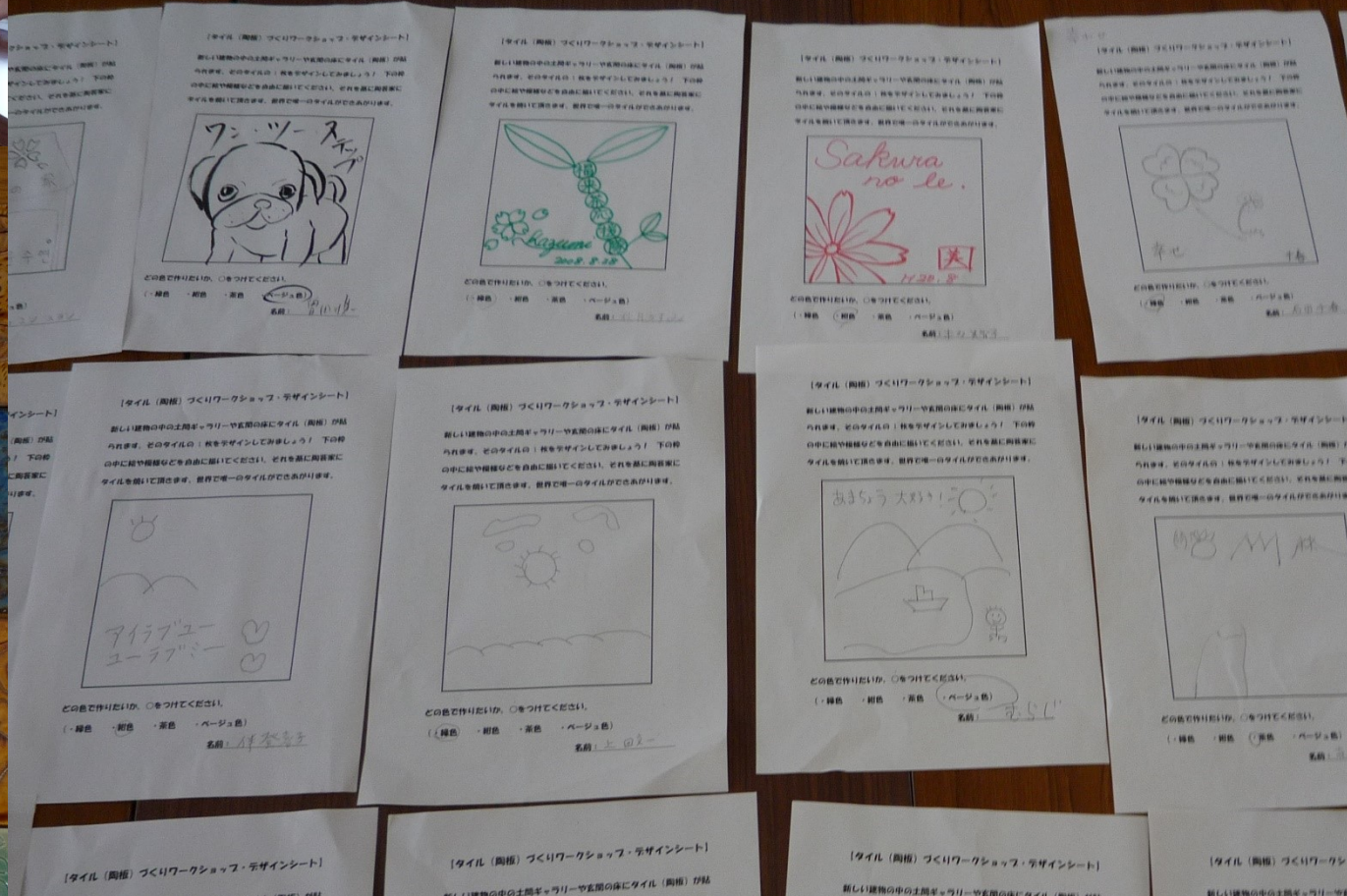
3つのコンセプトモデルを作り、
投票で選ぶ→投票による参加



A ¹	B ²	C ³
正	正	正
不正	不正	不正
8	4	10



関係者に
床のタイルのデザインを考えもらい、
陶芸家に作ってもらう
→参加の機会を作る！





施工での参加

様々な役割
参加の機会





完成！

ルーテル学院大学新校舎設計→学生の参加



日本建築家協会優秀建築選 2006



新入生歓迎会

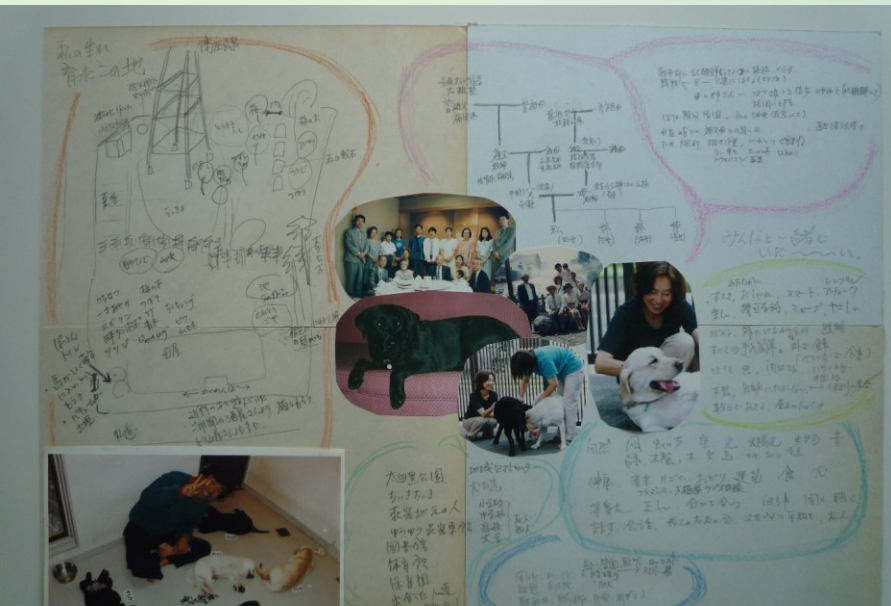


白鷗大学はくおう幼稚園おもちゃライブラリー設計→園児の参加





荻窪家族レジデンス





グッドデザイン賞2016

子育て支援 保健相談室 勉強会

地域の人も参加



■ポイント：利用者が設計プロセスに参加する

- 小学校→児童が参加する。
- 市民ホール→市民が参加する。
- 農林水産物加工施設→スタッフメンバーが参加する。
- 大学校舎→学生が参加する
- 幼稚園→園児が参加する。
- 集合住宅→居住者・協力者・住民が参加する

日本版CABEを考える

協議調整・
デザインレビュー
により
良質・美しい
といった定性的
価値観を
建築・まちづくり
に入れる
仕組み



CABEとは何か

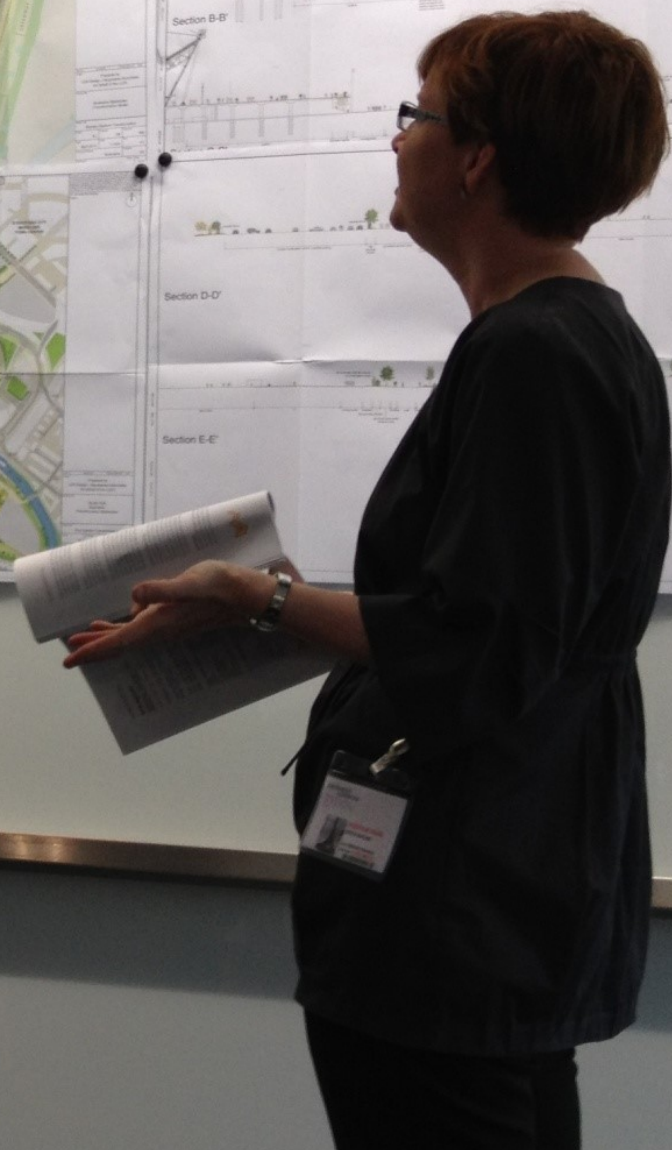
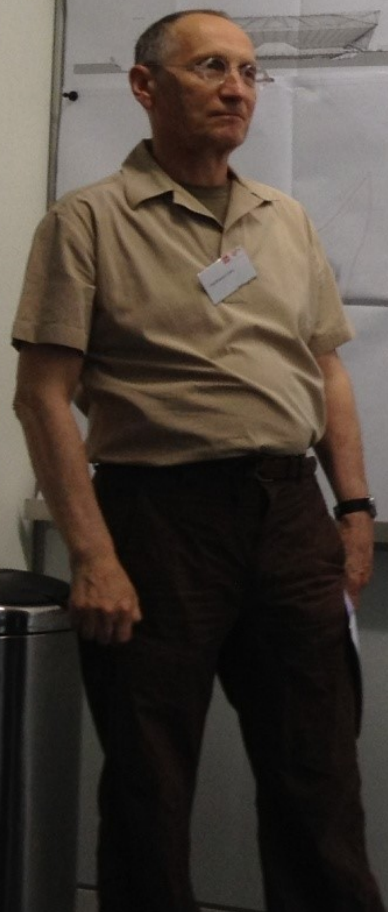
CABE(Commission for Architecture & the Built Environment) : 建築・まちづくり機構

- 1999年に英国で、良質な建築、美しい都市をつくるためにデザイン評価、支援、助言をする機関として、政府の外郭団体として設立された。
(年間：20億の予算、100人のスタッフ)
- 公共建築の許可申請に必要な審査（レビュー）をCABEが実施している。民間の大型プロジェクトも同様である。
- 2011年にデザインカウンスルと併合し慈善団体となる。家具も含めた広いエリアを扱う。政府からの助成はなくなったが、13年の実績の元、様々な団体からの支援金、審査料等の収入で運営している。

CABEの役割

- ①審査（デザインレビュー）：建築計画について、計画側が建築計画の内容を説明し、それに対してレビューパネラー（専門家）がアドバイスする。建築の質を高めるのが目的。
- ②実現支援：地方自治体の計画策定、公共施設の計画支援、コンペのアドバイスを行う。
- ③教育と広報：建築や街づくりについての、教育、出版、研究活動、WEBでの広報活動





デザインレビューのポイント

- 公開性：記録を残し、誰でも参照することが出来る。
- 客観性：デザインのスタイルについて評価するのではなく、良質なデザインとは何かを示し、問題点や課題を表出させる。
- 協議調整の機会として、専門家が計画側にアドバイスをしている。

CABEの良質なデザインとは

- ①建物が、その目的に合っており、持続可能であること
- ②周囲の関係において適した場所での開発であること
- ③コミュニティ推進など、利用者のためにデザインされていること
- ④二酸化炭素排出を最小限に抑えるなど、環境に配慮されていること
- ⑤人々が楽しむことが出来、誇りを持てる空間であること。

→誰でもが理解できる評価基準

日本の建築・まちづくりの課題

- 建築確認であり、数量的な判断基準で、美観や保存など文化や質に関わる定性的判断は含まない。
- 景観法による景観審議会の審査はあるが、既に計画が固まった時点での審査であり、修正範囲が限られている。審議会の権限も弱い。
- 事前調整はあるが、担当者は専門家ではない。

日本版CABEは可能か？

→協議調整・デザインレビューが大切！

■景観法の改善

→審議会の事前調整において、実務家を入れて協議調整・デザインレビューをおこなう。

■事業者側がまちづくり協議会に対して、実務家を交えて協議調整・デザインレビューをする。

■公共建築における協議調整・デザインレビューの機会を計画段階で設ける

■建築確認の前段階で協議調整・デザインレビューをする条例を作る。

※第三者としての専門家がデザインレビュー、アドバイスをする仕組みづくりが求められる。



計画側がまちづくり協議会に来て建築計画についての意見交換（赤坂の事例）



3ヶ月後に、協議会の要望を取り入れたデザインを説明、拍手が起こった！

• 萌芽事例

- ■京都市優良デザイン促進制度（2007年3月～）
 - →厳しい規制（高さ規制等）を用い、緩和の条件として
 - デザインレビューを取り入れる。
- ■広島県と日本建築家協会中国支部+広島県建築士会
- が魅力ある建築部の創造にむけた連携協定（2013年7月）
- →公共建築のプロポーザルコンペの
- 審査にデザインレビューを取り入れる
- ■目黒区「景観アドバイザー制度」において
- 3人の建築士・建築家が関わってデザインレビュー
- を実施、区内の公共建築計画についてアドバイスも
- 行っている。

■新横浜市庁舎計画案、公開デザインレビュー

2017年4月27日

主催：日本建築家協会神奈川支部

神奈川建築士会

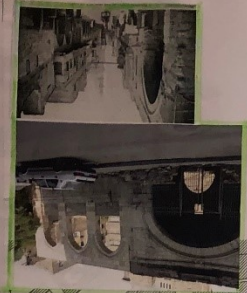
日本建築学会関東支部神奈川支部

共催：横浜市



オンラインで広がる世界： カイロ旧市街住民参加の保存まちづくりワークショップを実施

③マンジャク宮殿



②サビール・クッターブ
シナン・パシヤ



①ハンマーム・バシュタク



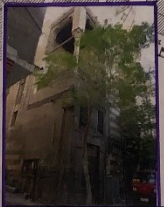
※2021～2022

文化庁、文化遺産国際協力拠点交流事業

スークシラーハ通りと6つの歴史的
建築物の利用保存を住民参加で検討



④サビール・クッターブ
イルゲイ・ユーズフィー



⑤サビール・クッターブ
ルカイヤ・ドゥドゥ



⑥サビール・クッターブ
ハサン・コーカリアン



One of the collapsed

日本から専門家がオンラインで
繋がり、サポートを行う。



カイロでは、エジプト人建築家が
ファシリテーターを行い
住民参加のワークショップを実施





エジプト人建築家がファシリテーション
の技術を学ぶ→住民参加ワークショップ
→住民が建築や街の価値を理解する
→利用保存につながる



住民参加の街づくりのポイント

- 地域のタカラ（良い点）を活かすと共にアラ（問題点）を解決
- 地域の特徴、ヴァナキュラー（地域性・土着性）を見出す
- 文化の継承という意味で歴史的視点を大切にする
- 福祉のまちづくりの視点を大切にする
- コミュニティーづくりの視点を大切にする
- ※地域に根差すコミュニティ（コモン）
興味関心が同じなコミュニティ（アソシエーション）
の両輪の活動が求められる。

以前は、建築設計やまちづくりは専門家で行っていました。
成熟社会になると

まちづくり←住民が参加、

建築設計←利用者が参加



参加により、住みやすい街、使いやすい建築になる。

行政＋専門家＋住民の良い関係・仕組み作りが大切！
※建築まちづくりの民主主義

良質な建築、美しいまちづくりのために

行政・住民・専門家を繋ぐファシリテーター（促進者・調停者）が求めら

ファシリテーター：Facilitator、促進者

1940年代後半に用いられ始めた言葉、当初はグループワークにおいて、プログラムの進行役として全体をまとめていく役割を示していた。それが会議などで、発言や参加を促したり話の内容を整理し、参加者の認識を共有する役割や、まちづくりでの住民の様々な意見をまとめる役割などに繋がっている。

課題を達成すべく、公平な立場に立ち、専門家の言葉を分かりやすく解説したり、住民のつぶやきを意味ある言葉に翻訳するなど、様々な立場の意見をまとめていく調停者の役割を担う。

社会課題解決型の一般社団法人

JCAABE 日本建築まちづくり適正支援機構

- ・良質な建築、美しいまちづくりを目的に設立
 - ・正会員は、認定まちづくり適正建築士を取得している。
→一級建築士以外に専門資格を持ち4つのセミナー受講
 - ・ADR調停人の推薦団体（法務大臣認証ADR機関提携団体）
 - ・まちづくりファシリテーター養成講座を実施している。
- ※文科省受託事業を実施「まちづくりファシリテーター養成講座」
※文化庁受託事業を実施「カイロ旧市街保存まちづくり」

JCAABEまちづくりファシリテーター養成講座は、
2023年日本工学教育賞、2024年度日本建築教育賞を受賞
→誰でも受講でき、資格を得ることが可能

JCAABEまちづくりファシリテーター養成講座が 2024年度日本建築学会教育賞を受賞しました!

学生、社会人、オンライン

まちづくりファシリテーター養成講座

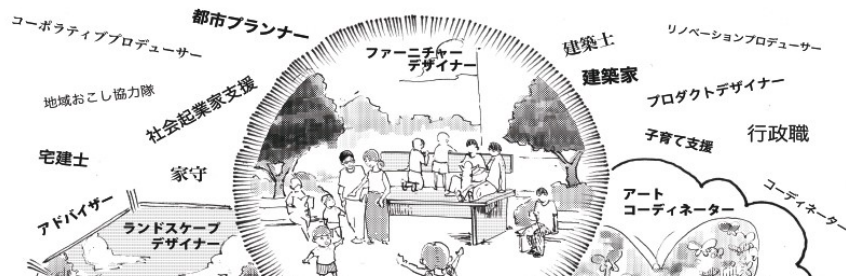
街には、空き家や中心市街地活性化などの課題があり、建築には新築のみならずリノベーションなど編集設計が求められています。これには多様な知識を持つ、まちづくりファシリテーター（促進者・調停者）が必要であり、ここに建築系の学生、実務者向けの養成講座を設けました。この機会に受講し、社会のニーズに応えられる専門家を目指しましょう!

養成講座の特徴

- 都市計画、まちづくり、建築デザイン、防災、保存・修復、エネルギー、不動産、経営など全30コマの充実した内容です。
- 講義と実践（ワークショップ、演習、見学）を組合せ、知識やスキルを体得できます。
- ビデオやオンライン教材により、分かりやすい内容となっています。
- 教材は、著名な建築家、研究者、実務者によって作成されています。
- 履修者は「まちづくりファシリテーター養成講座修了者」として「登録まちづくりファシリテーター」として登録カードが発行されます。希望者はJCAABEのホームページに掲載。
- 登録者は、2年間以上の実務経験と一級建築士取得により「認定まちづくり適正建築士」として正会員登録ができます。

【オンライン履修プログラム】

- 全30コマの内、講義と見学の21コマは動画とテキストによって受講、ワークショップと演習の9コマは、協力教育機関の演習授業にオンライン参加いただくプログラム
- 受講後に各授業の感想レポート（200～400文字）をJCAABE事務局に提出、承認の上、全30コマ履修完了となり、登録証カードが発行されます。
- 履修費用：28,000円（登録料、カード発行費用を含む、1年目の年会費は免除）
- ※演習・ワークショップは協力教育機関の受入可能人数がありますのでお問合ください。
- 申込・問合：JCAABE（一社）日本建築まちづくり適正支援機構：info@jcaabe.org



あなたも街のキーパーソンになり

JCAABEまちづくりファシリテーター養成講座実施委員会
JCAABE Community Development Facilitator Training Committee

建築系まちづくりファシリテーター養成講座の開発と実践 Development and Practice of "Architectural Community Development Facilitator Training Course"

○社会的意義・目的と概要 「つなぐ」をテーマにした促進者の育

現在、地域における課題・課題として「空き家・空き地」「防災」「地域活性化」「福祉の充実」「人口減少」「担い手不足」などが存在している。それらを総合的に解決、推進するためには、地域創生を含めたまちづくり活動が大切である。行政においては、空き家対策は緊急課題であり、地域住民と共に解決策を見出すことが求められている。これには建物だけではなく資金調達や運営、活性化といったエリアマネジメントを含めた総合的な知識が必要である。まちづくりには多様な立場の人が関わるため、その合意形成には専門的手法が必要となり、それを推進するためのファシリテーターが必要であるが、それを担う人材が不足しているのが現状である。本取り組みは、全国の専修学校・大学などの建築系コースにおいて建築をベースとしたまちづくりファシリテーター講座の開発と実践を行うことで住民・市民と協働できる人材育成を行うものである。この取り組みは、2019年度文部科学省の「専修学校による地域産業中核的人材育成事業」に日本建築まちづくり適正支援機構（JCAABE）が申請・受託してスタートした。幅広い分野から建築士、建築家、研究者、教育者等が集まり、事業実施委員会を設置し取り組んできた。2021年からは各地域に根差した高等教育機関と協働し教育活動を実施し拡がりを見せている。



○事業の経過 調査—開発—実践—未来へ 段階を踏まえた人材



良質な建築、美しいまちづくりのために

- **参加のデザイン**→建築設計とまちづくり
- 専門家にコミュニケーション能力が求められる。
- 協議調整を通して定性的（良質・美）が取り入れられる。
- まちづくり**ファシリテーター**の必要性

- 文化の成熟度が上がる
→建築まちづくりの民主主義
- 専門家と一般の知恵と
アイデアがブレンドされる。

→**持続可能性**に繋がる。

